

校内研修計画書

1 学校名 高山村立高山中学校

2 校長氏名 中澤 昌宏

3 研修主任氏名 剣持 好司

4 令和元年度の研修について

(1) 主題 「生徒が主体的に学ぶ授業づくり」
～生徒が進んで追究し、共に解決する課題設定の工夫を通して～

(2) 成果と課題

昨年度の成果としては、全職員で地道に生徒の主体性を育む課題設定の工夫に取り組んだことで授業改善ができたことが挙げられる。課題としては、生徒の気付きをいかして課題設定をしていくために、どのような学習をし、どのようなことが分かり、できるようになればいいのかといった見通しを持ちながら進めていくことが挙げられた。

5 令和2年度の研修計画

(1) 分野 学習指導

(2) 主題 「一人一人が見通しをもって生き生きと学ぶ授業づくり」

～学びのユニバーサルデザインの視点を活用し、
生徒が「分かる」授業の工夫を通して～

(3) 主題設定の理由

本校の課題として、「特別な支援を要する生徒が通常学級で一緒に学ぶ授業があること」、「通常学級に所属していても教育上支援を要する生徒がいること」が挙げられる。また、昨年度に課題設定に視点を置いて研修を行ったことで、生徒が見通しをもたないと主体的に学ぶ授業につながりにくいことが分かった。

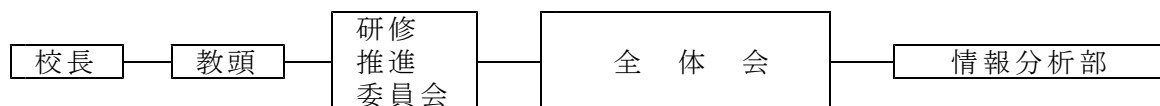
これらのことから、多様な特性をもつ生徒一人一人が、見通しをもって生き生きと学ぶには「生徒一人一人の特性に応じた分かる学習を保証すること」が大切であると考え

る。そこで、今年度は研修主題を「一人一人が見通しをもって生き生きと学ぶ授業づくり」とし、サブテーマは「～学びのユニバーサルデザインの視点を活用し、生徒が「分かる」授業の工夫を通して～」とした。昨年度の校内研修の取り組みから得られた「見通し」という視点を生かし、さらに授業を工夫し生徒一人一人の特性に応じた「分かる」学習を保証していくことで、生徒が見通しをもって生き生きと学ぶ授業づくりを目指したい。

(4) 研修内容及び方法

- ・生徒が見通しをもって生き生きと学ぶ授業づくりを目指すために、「授業の中で生徒一人一人の特性に応じた「分かる」学びを保証すること」を取り入れ、授業改善についての研究を深め、生徒の変容により検証する。
- ・アンケートを年度初めと終わりに実施し、生徒の授業に対する意識の変容を検証する。

(5) 研究組織



(6) 年間計画

4月	・昨年度の研修の振り返りと今後の展望（全体会） ・研修の方向性の確認（全体会）
5月	・研修組織の確認（全体会） ・一人一授業の確認（全体会）
7月	・一人一授業の開始、計画訪問授業の確認
10月	・指導主事計画訪問
2学期	・一人一授業の実施 ・ICT研修
3学期	・研修の成果と課題の確認 ・研究紀要作成 ・研修の発表 ・次年度の研修へ向けた検討